

ラポール

～ ラポール：心が通じ合う、信頼関係 ～

男女共同参画社会基本法
—5つの理念—

1. 男女の人権の尊重
2. 社会における制度又は慣行などへの配慮
3. 政策等の立案及び決定の場への共同参画
4. 家庭生活における活動と他の活動の両立
5. 国際的協調

(平成11年6月公布、施行)

◆男女共同参画週間のキャッチフレーズ(令和2年度)

『そっか。いい人生は、いい時間の使い方なんだ。』『ワクワク・ライフ・バランス』

◆コロナ渦における男女共同参画への影響について

新型コロナウイルスの新規感染者数は秋以降、全国的に増加しており、一日の感染者数は、過去最多を記録しているなど、私たちの生活に大きな不安が広がっています。

感染者の拡大により私たちの日常生活にもいろいろな影響が出てきていますが、その一方で、今般のコロナ騒動から私たちは①いままで当たり前と思っていたことが決してそうではなかったこと②健康で暮らせることが何物にも代えがたいこと③感謝の言葉を忘れないこと④危機に対して確かな情報の発信と冷静な行動が必要であることなど、多くのことを教えられ、学びとることができたようにも感じています。しかし、外出自粛や休業等による生活不安・ストレスからのDVや、性暴力の増加・深刻化が懸念されており、女性にとって大きな社会問題となっています。

【内閣府の報告書によると】

- ◇無給の家庭内労働に費やす時間が増えたと答えた人が60%
- ◇育児や介護等に費やす時間が1週間に5.2時間増えた(家事が増えたことが原因)
- ◇10月に自殺した女性(20代と40代)が昨年同期比より2倍増加した(仕事や育児などの悩み、DVや性暴力などが原因)
- ◇エッセンシャルワーカー(医療・介護・保育の従事者)の処遇面や働く環境が厳しいとした上で、
 1. DV・性暴力・自殺等の相談体制と対策を早急に強化すること
 2. 休校・休園の判断において、女性・子供の影響に最大限配慮すること
 3. エッセンシャルワーカーへの処遇改善等を十分考慮すること
 4. ひとり親家庭への支援を強化すること
 5. デジタル、福祉分野などへのシフトに向けた人材育成、就労支援を進めていくことと提言している。

以上、この度のコロナ禍における女性への影響を視点に記しましたが、世界経済フォーラムの発表によりますと、日本の男女格差ランキング(2019年版)は、153カ国中121位であると報じられています。格差解消には、性別による影響やニーズの違いを踏まえて政策課題を把握し、今後の政策立案につなげていくことが必要であると強く感じています。(三好)

～認めあい 分かちあい 補いあう 男女共同参画社会をめざして～

“グループあい”は、男女共同参画社会推進のために
さまざまな啓発活動を行う団体です

興味や関心がある方は、是非一緒に活動してみませんか。お待ちしております。

発行/矢板市男女共同参画啓発活動団体“グループあい”(広報部)

事務局/矢板市生涯学習課 ☎ 43-6218



グループあい活動報告 No.15



【男女共同参画地域推進員スキルアップ講座 2020に参加して①】

本講座は、県が3か所で開催した一つで、10月17日(日)にパルティにて、参加者を最小限にするなどのコロナ対策を実施して開催されました。最初に、令和2年度男女生き生き地域活動表彰者4組(「グループあい」も含まれます。)の発表があり、休憩をはさんで「楽しく学ぶSDGs」の講話がありました。講師は、(有)フェードイン代表の工藤敬子さんでした。SDGs(エスディー・ジーズ)という言葉は、私は今回初めて聞きました。日本語では「持続可能な開発目標」と言うそうです。2015年9月に国連加盟193か国が全会一致で、2030年までに達成しようと、地球と社会のために、17の目標を掲げたということです。

地球の資源の限界を考慮した人の動き、社会的貧困からの脱出、教育の充実など、あと十年でどこまでできるか。17の目標に169のターゲット、さらに232の指標でモニタリングするという3重構造で進められているそうです。知らず知らずの間にSDGsの施策に沿った行動がとれたら良いと思いました。(横山)

【男女共同参画地域推進員スキルアップ講座 2020に参加して②】

令和2年度「男女共同参画地域推進員スキルアップ講座」(宇都宮会場)に参加してきました。

前半は、令和2年度男女生き生き地域活動表彰者の各団体の活動発表(10分程度)がありました。

紙面の都合上詳しくはお伝え出来ませんが、佐野市の朗読サークル「ひびき」、佐野女性史研究会、栃木市で子育て情報誌(TOCHICO 日和)を発行している松本さん、そして我が矢板市の“グループあい”。いずれも各々の地域で生活する皆さんに向け、工夫をこらし、生き易さのヒントを一生懸命伝えようと活動されている内容でした。後半は、(有)フェードイン代表の工藤敬子さんによる「楽しく学ぶSDGs」と題した講義でした。何かとても難しく感じますが、17の項目を一つ一つ見て行くと案外身近な問題・課題なんです。機会があったら、是非みんなで考えてみましょう。(岡本)

【県男女生き生き地域活動表彰における優秀賞及び県学校教育支援ボランティア感謝状の受賞に寄せて】

昨年秋、突然“グループあい”にダブル受賞の朗報が届きました。頭に浮かんだのは16人全員の顔でした。メンバーへのご褒美だと、嬉しく有難かったです。ひとえに、今までご尽力いただきました皆様のお陰と感謝申し上げます。「男女共同参画社会」を啓発活動するにあたり、分かりやすく伝えるようにと試行錯誤の繰り返しです。何度も話し合い、下地作りをしています。人と人、お互い出来ることを出来る人が協力し合えば家族はもとより、いきいきした社会作りができるのではないのでしょうか。今後も地道に且つ時の流れに添った活動をとしたいと思います。今年こそ、良き一年になりますように。(渡邊)



【編集後記】2020年12月8日の読売新聞朝刊の1面トップに、男女共同参画、指導層「女性3割」先送りの大見出しが・・・、『第5次男女共同参画基本計画の原案が明らかになった。政治家や経営者らの「指導的地位」に占める女性の割合について、従来は「2020年までに30%程度」を目標としてきたが「20年代の可能な限り早期」に実現を目指すとし、達成時期を先送りした』との記事があり、男女共同参画の難しい一面を見た感じがした一方、コロナ禍は第3波が押し寄せ一向に終息の目途は見え、猛威を振るっている。企業は出勤率を抑え仕事はテレワーク、会議もオンラインで人との接触を避け、勉学の場でも大学では対面からオンライン授業が主流になっている。我々の生活でも感染防止の策で不要不急の外出が叫ばれ、更にテレワークの在宅勤務で家族の集まる時間が多くなるこの機会に、家庭内でも男女共同参画についての話し合いは如何だろうか。令和3年(2021年)はコロナ感染が終息し、東京オリンピックが無事開催され世の中の生活が平穏時に戻り、われらの「グループあい」も通常活動に戻ることを望んでいる。(佐山)